



## 笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

座間市公民館

12月3日(金)に、2年生が座間市公民館に見学に行きました。私も引率し、子供たちと公民館に行きました。その中で、子供たちのすばらしい姿にたくさん触れることができました。安全に気を付けての行き帰りの歩き方、おしゃべりをせずにマナーを守りながら道路を歩く姿は、2年生とは思えないほどでした。また、公民館での話を聴く姿勢もすばらしく、感心しました。

公民館では、館長さんが温かく迎えてくださいました。学校は学校教育として学習する場であるけれど、公民館は年齢に関係なくどんな人も学ぶことができる社会教育の場であるという話を伺いました。そして実際に合唱を行っている学習の場の見学をさせていただき、合唱の先生の指揮で学びに来られている方々が、一曲歌を歌ってくださいました。子供たちは、真剣に歌を聴いていました。公民館が学びの場であることを実際の様子を見せていただくことで、子供たちの理解が確かなものになったと思います。また、図書室も学校とは異なり、多くの年齢の人達が読めるようにと、小さな子から大人まで読むことのできる幅広い種類の本があることも説明していただきました。最後に資料室の中で、昔の道具や縄文土器等の見学も行いました。

人と人が繋がることのできる、地域の中の居場所となる公民館。公民館の存在の大きさを感じることができる機会となったのではないかと思います。

一つの種が秘めている力

トマト博士は、小さな種から大きなトマトの木を作りました。彼の持論は、「種の中には無限の力が宿っている。それを信じて種のストレスを取り除いて育ててやれば無限の力を発揮する」というものです。栄養分たっぷりの水と適度な温度と光の中でどんどん成長していく。でも、同じ種でも裏庭にまけば、ここでは育つことはできないと自ら成長をやめてしまう。要するに実りの多い少ないは種のせいではなく、種を信じ種と心を通わせ、ふさわしい環境を整えたかどうかということ。一つの種から一万三千個のトマトが実った。奇跡のような話ではあるけれど、実は種の中にその力がすでにあるということに驚かされる。しかも、博士が言うには、「遺伝子操作をしたわけじゃない。どんな種でもその力を持っている。あとは、その力を信じて伸ばすだけ。」(晴佐久昌英：あなたに話したい)

トマトの中にある小さな一粒の種に無限の可能性があるという話です。改めて子供のもつ力を信じて寄り添っていきたいと思いました。

私たち大人の関わりは、子供のもつ可能性を伸ばすことに繋がっているのかを自問自答しながら、子供たちと向き合うことが必要であろうと考えます。子供の笑顔と輝きが引き出される瞬間を見出しながら、そして、学校・家庭・地域、みんなで子供たちの姿を語り合いながら、日々を積み上げていきたいと思います。